



こくろうよなご

第13号

2025年3月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



出雲地区分会は6名の組合員の参加で、生活・職場実態について交流をしてきました。参加者からは「シニア社員は同じ仕事で賃金も安い。モチベーションが下がりっぱなしだ」「シニア社員が安心して働き続けられる労働環境を整備してほしい」

ローン返済・大変だ

3月4日、「2025春闘勝利・米子地方本部統一行動」を展開してきました。米子地方本部をメイン会場に、各分会とリモートで繋ぎ、春闘交渉報告・ダイヤ改正・駅業務の効率化施策の団体交渉報告・こくみん共済制度改定の説明を行い、その後は、各分会毎にチラシ配布・春闘討論集会・現場長との意見交換などの取組を行ってきました。米子会場では、当日開催の「国労中央本部総決起集会」にもリモートにて参加、全国の組合員・家族と25春闘を全力で闘う決意を固めました。

25春闘を闘い抜くぞ！

米子地方本部統一行動展開

「特急通勤となったが、遠距離通勤は無くしてもらいたい」「家のローンが残っており、生活が厳しい」「会社は設備投資にお金をかけているが、人件費に回すべきだ」「今後の木次線の行方が心配だ」などの声が出されています。低賃金への不満が大きくなり、25春闘の前進に向け奮闘を行こうと意思統一を行ないました。

基本は職場闘争に！

鳥取地区分会では、7名の全組合員参加で、春闘討論集会とチラシ配布を行いました。はじめに労大ハンドブックの「2025春闘」を読み合わせました。声を出して本を読むのは久しぶりで、読み間違えや区切りが微妙で笑えるシーンもありました。意見交換では「物価上昇に賃金が全く追いついていない」「仕事に見合った賃金を」「シニア社員の賃上げにも全力を」など、労働条件の改善も春闘も「職場闘争が基本」であることを確認して、討論集会を終えてきました。

節約が当たり前に！

米子連合分会の春闘討論集会には、9名の組合員の参加があり、それぞれの生活実態について交流を行ってしました。「回転寿司でうどんを食べて腹を膨らす」「肉は豚肉で野菜がたくさん入った野菜炒めをしている（野菜も高いですが・・・）」「退職後年金だけでやっていけるのか。何歳まで働けるのか心配」「割引になった食品を買って、賞味期限が短くてかえって食材が膨れる」「職場では、インスタント食品で済ますことが多い」「お小遣いせいで、一回飲みに行くとその月は節約の生活実態が次から次へと報告されています。こうした実態も議論しないと問題としないとの意見もあり、実態討論の大切さを再認識しました。

次へと報告されています。こうした実態も議論しないと問題としないとの意見もあり、実態討論の大切さを再認識しました。



地域の仲間と闘う春闘に！！

2月27日、鳥取県連合西部2025年春季生活闘争勝利総決起集会が開催され、米子市公会堂にて開催され、米子連合分会から4名の組合員が参加して

ました。集会では、「すべての働く仲間の生活向上につながる賃上げを目指し、最後まで粘り強く闘う決意」を固めました。

集会の後は、公会堂から市役所まで「25春闘勝利」「格差是正」「働くことを軸とする安心社会の実現を」など、シュプレヒコールをしながら行進、広く市民にアピールを行いました。



私達の生活こそ危機的だ！

25春闘の山場に向け、本部での交渉も熱を帯びています。止まらない物価高の中に合って、実質賃金の低下を許さず、生活の維持・向上を目指して、3月中旬の回答日迄、職場・地域から賃上げ圧力をかけ続けていかなければなりません。

24春闘結果の連合集計では、ベアと定昇込みで33年ぶりととなる平均5%以上の賃上げとなりました。一方、JR西日本会社で見ると、諸手当を含めた全社員の平均賃上げ率は6.3%と言うものの、ベアと定昇の全社員平均は5340円、率にすると約4.7%程度で連合平均の5%に届いていません。

一方、最新の物価指数をみると、23ヵ月連続で2%以上の上昇、実質賃金は2ヶ月連続でのマイナスです。帝国データバンクの調べでは、今年1月、4月の値上げは61.21品目に上り、2024年同期に比べても50品目以上多くなるとの見通しとの事です。会社は、企業物価や委託費の高騰などで、

また、24春闘では、人材難を背景に、若手社員に厚い配分の回答となる一方で、賃金力などが緩やかに寝かされるなど、中堅・ベテラン社員の賃上げは低く抑えられてきました。私達働く者の生活の基礎となる賃金額表が、労使の塾議なく変更されることについても「異議」を唱えない訳にはいきません。最後の最後まで、頑張ろう。